本邦製鐵事業の統一速進に關し朝野の識者に訴ふ

島岡亮太郎

歐洲大戰亂の勃發以來、吾國人か是に依りて受けたる教訓は、精神界に物質界に誠に甚大なるものあり。國際の德義、人道の講演は、畢竟するに平和時代に於ける閑人の道樂に過きす。國際公法は强者の破壞に委し、遺憾なく弱肉强食の本義を發揮す。今後ヒルムの轉回に連れ、如何なる悲慘の活畫を吾人の顏前に映寫すへきや、吾人國民は、更に〳〵大活眼を開きて舞臺に一層の注意を拂はさるへからす。見よや吾人は現在已に此の活畫の傍觀者にあらすしてヒルムに映寫さるへき主人公の一人に加盟せるにあらすや。時局か新に深く吾人を感せしめたるは、人類異種族の衝突競爭の遂に免かるへからさること是なり。我大和民族と接觸して最後の抗爭を爲すへきは果して何れの民族なりや、今より豫斷し難しと雖、要するに如何なる强力なる民族と接觸するも最後の勝利を占むへき確固たる信念と、準備あること必至主要の條件たり。

尙更に深く吾人を感せしめたるは、近時吾國人か前述の教訓を實際に目覩し、大砲の前に公法無く、水雷の前に人道なきの事實を一般に看取したるの結果、今更の如く製鐵事業の必要を唱道するに至れること是なり。製鐵事業か國家の存立條件たる主要の工業にして、自給自足の途を講せさるに於ては一朝事ある時に當り、其敵國の如何に因りては、國家の存亡に關係する重大なる深憂を發現すへきこと、吾人か年來常に唱道せし所なり。然るに時代の趨勢は、未た十分に吾人の說を容るゝに至らす、製鐵事業の進步遲々として見るへきものなく、官設八幡製鐵所の外殆と擧くるに足るものなき狀態を

以て今日に至れり。然るに今回の時局に際しては、幸にも吾國の立場は、現在存亡を賭するの重大なる位置に立たず、寧ろ積極的に發展すべき有利なる機會を把握し得べき好位置に立てるは、同慶に堪へすと雖、油斷は大敵なる吾國民は今の時に於て時局の教訓に基き大に覺醒準備する所なかるへからす。

蓋し過去に於ては(一)製鐵事業創業の時代に於ける技術上の困難と、(二)小資本の經營に適せさると(三)原料供給の困難との三點は、吾國人をして奮て該事業に著手するを躊躇せしめたる一面の理由にして、既設の官立八幡製鐵所をさへ持て餘し厄介物視せる時代もあり。從て、當路者か極力主張せし該製鐵所擴張案等も遷延勝の有樣にて、今日尙第一期の擴張工事さへ完成せさる遺憾の狀況に在り、時局に際し殊に殘念の感に堪へす。

吾國製鐵事業は微々として振はさること、如上の如く、米獨英の如き千萬噸を以て數へ、第二流の製鐵國たる佛露白の如きすら數百萬噸を以て數ふる今日に當り、吾國の產鐵額如何と見れは、八幡製鐵所・釜石・本溪湖・輪西等の各製鐵所に、中國地方に於ける舊式時代の小工場の產物を集むるも鋼と銑とを併せて三十六七萬噸を出てさるへし。眞に比較にならぬ少量にあらすや。然るに現在我國に於ける鐵材の需要は些少なりと雖、概算百數十萬噸なるを以て自給力は其三四分の一に過きす。況んや今後に於ける鐵材需要增加の比例は既往に比し一層長足の累加率を加ふへきは現在の事情に照して明なる所なるをや。

然り今や時代は進展して吾人の主張を貫徹するに絕好の機會に到達せり。新聞紙に、雜誌に日として製鐵事業に關する記事を見さるなく、商工業家亦一齊に起て製鐵會社の計畫を爲し既設の工場は擴張せられ新設のもの亦數箇所に達せんとするの盛況を呈し國家の爲慶賀に堪へさる次第なり。然りと雖、顧て考ふるときは前陳の如く製鐵事業の創業たる容易の業にあらす、而も時代は倍大規模即

大資本の工場を要求し、原料の供給亦愼重の調査を要するものあり。時世に乘じ輕々に其風潮を利用せんか、必すや後來各自に、或は相互に、困難なる事情に陷ることなしと斷すへからす。予は茲に於て吾國否東洋の製鐵事業の後來の發達に遺憾なきを期せん爲、且は官私立工場の調節を圖り一齊に足並を揃へて蹉跌無く左提右挈以て國家存立の條件たる原料鐵材の自給自足を充たさん爲、左の諸條件を實行せんことを朝野の當路諸公に望まさるを得す。

(一)政府は此際主となりて官私を通して製鐵事業統一の方法を講すること

(二)東洋全體に互に製鐵事業の永遠の策を講する爲調査機關を設くること

(三)見込ある既設の民設工場を擴張せしめ、新設の工場何れに對しても政府は相當の援助を與ふること

(四)八幡製鐵所は此際大に擴張すへきこと

以上各項に付序を逐うて略説せん。

一　政府は此際主となりて官私を通して製鐵事業統一の方法を講すること

後來の製鐵事業は益ゝ大規模大資本を要するを以て、工場の新設に當りては各自十分の調査研究を爲すへきこと勿論なりと雖、現在の如く政府は政府、民間は民間と、各個孤立し其間に於ける事業上の連繫を缺くに於ては、各自の調査は眞に安全なるものと云ふことを得す、即各自は各其容易なるものに目的を集注し困難にして而も重要なるものを缺如するか如き、或は數者が限りある同一の原料を基礎とするか如き、或は自他をして無益なる競爭の地位に立たしむるか如き、或は需給の原則に背反せる處の濫設の弊に陷るが如き、吾國製鐵事業の適順の發達を阻礙するの虞なしと云ふを得す、例へは吾國に於ける鐵類需要高は一箇年總額百數十萬噸なりと雖、其種類たるや大別しても數十種、サイズ品質等に依り細別するときは數百種に達すへし。其各種類、各サイズにつき需要の數量不同にし

て一様ならす、中には甚僅少の數量を要するに過きさるものあり。官民各自の工場か右各種類のものを全部製造せんことは、工場經營の拙なる方法たるのみならす殆と不可能に屬すへく、況んや小資本の小工場に於ては絶對に不可能なるをや。彼の比較的八百屋主義なりとの非難さへありし八幡製鐵所の大規模を以てしても、今日製造し得さる各種材少なしとせさる有様なり。然るに一面新設工場を計畫するものは其新設工場に要する資本と、原料位置其他の特種關係に基き難を去り易に就かんとする結果、或は吾國に於ける鐵材の供給か需要に對し全體として大に不足するにも拘はらす、或種類の物は各工場にて製作せられ需要に超過するの不經濟なる現象を出現すること無しとせす。例へは現在に於て製鐵工場として各種の小形物の普通バー類は、設備に於ても作業に於ても比較的簡易にして販路亦容易なりとて各所に同様の工場起るとせんか、必すや供給過多の結果に陷るへく、一面大形物其他の形物にして困難なる製作品は外國品を仰くの已む無きに至るへし。是眞に其一例に過きす、是等の需給關係を調査するは勿論、八幡製鐵所の製品との調節、原料と工場設備との關係を審査し、民間工場をして蹉跌失敗なく其發達を遂けしめんとするには、政府は茲に盟主となりて是か調査を爲すを要す。一例を擧くれは大設備と大資本を要するもの、技術上多年の熟練を要し急速の成功困難なりと認めたる製品は、大規模を有し多年の經驗に富める八幡製鐵所是を引受け、小工場にても成功に近きを認めたる製品は是を民間工場に適當に分配製作せしむるを適當とせん。例せは現在の八幡製鐵所大形工場の如き厚板工場の如きは民間小工場には不適當なれとも、中小形工場薄板工場の如きは民間設備に適せん。又は鋼鐵としてビレットの如き半加工の程度の物を民間に供給して各種の中小形薄板等の製品を作らしむるも一方法なり。是八幡製鐵所は單純なる營利工場に非すして、國家の立場より吾國に於ける製鐵工業の發達を遂けしむる基礎又は模範工場として後進工場を補導誘掖するの大任務を有するか故なり。要するに右の如く同一種類の製品を避け最も有利に工場を利用

するの外、尙原料の需給、工場設置の位置其他に於ても大に調査研究する必要あり。是か調節を圖り統一の目的を達せんには、民間の自由に放任せす既設大工場たる官設八幡製鐵所を有する政府は主となりて民間事業家を指導するの最も時勢に適したる急切の處置なるを信するものなり。

此か方法としては、調査會の如きものを設け官民中有力なる人々を擧け其任に當らしむるも可なるへく、要は有力にして實行可能の權威なる組織たるにあり。

二　東洋全體に亙る製鐵業の永遠の策を講する爲調査機關を設くること

製鐵事業に關しては吾日本は遺憾なから吾領土の範圍に於ては大規模の獨立經營を爲す克はす。(現在の調査程度にては)原料たる鐵鑛石・石炭等を支那南洋方面に取るの要あり。隨て鐵鋼材料の自給自足の範圍は是を單なる日本領土内に限らす、支那・暹羅は勿論南洋ジャワ・スマトラ等を包含せる廣き東洋一體に擴張し、特に支那とは同一體となりて相偕に東洋の製鐵事業を發達せしめさるへからす。此點に關しては該事業に關して一日の先進國たる吾日本は、支那を指導し提携して東洋の製鐵事業を完成するの義務あるものなり。現に北方に於ては予か管理せる大倉組と支那政府との合辦事業たる滿州本溪湖製鐵所(本溪湖煤鐵有限公司)の如き、又南方に於ては大島博士か最高顧問として從事せる漢冶萍煤鐵公司の如きは、東洋に於ける製鐵事業發達の意味に於ても、兩國人の工業經濟同盟の意味に於ても、誠に深甚の意義あるものなり、然るに支那に於ける鐵鑛石炭の豐富なる已に一般に周知せらるゝ處の滿州・山東・山西及長江一帶特に有名なる大冶等以外に於ても其數甚多く、實に無限の鑛量を有するものにて未た採掘に着手せさるもの非常に多く、況んや未調査の鐵山、炭山等も甚た多かるへき見込十分なるを以て、今に於て機を逸せす十分の調査を進め以て日支提携の實を擧け、東洋は東洋の鐵材を以て自足するの手段を講せさるへからす。ジャワ・スマトラ方面の探鑛調査亦必要なること勿論なり、

以上絮說するか如く東洋に於ける製鐵事業の統一は第一項に於ける內國工場の調節按排に比して尙一層の困難なるを以て、先最初に於て各原料鑛山の調査より始め、國人相互に競爭するを避け、胸襟を開き、一致團結して機宜を失せす永遠の大策方針を確立し、先鞭を歐米各國に付けらるゝか如き失體無きを期せさるへからす。此は實に同時に國家永遠の大計にして眞に其存立條件たり。隨て政府(又は有力なる團體)に於ては適當なる調査及實行機關を設け專心其衝に當らしめんこと切望に堪へさる所なり。

三　見込ある現在の民設工場を擴張せしめ、新設の工場何れに對しても政府は相當の援助を與ふること

第一項及第二項所說の如く、政府は製鐵統一に對し、特に東洋の製鐵と云ふ點に對し、十分の考慮を費さゝるへからさること勿論の事なるか、第一項の統一方針を決し、民設各工場をして各其の分擔する製品に向ひ安心して事業を進捗せしめんとするには、政府は技術上は云ふに及はす、資本の調達に於ても、進んては利子の補給に於ても、或程度迄援助を與ふること必要なりと信す、世人の熟知せる如く吾國に於ける製鐵業は八幡製鐵所を除く外殆と見るに足るもの無く、隨て技術者及職工の熟達したるものを得んこと至難なるを以て、新に工場を創設する場合に於ては勢、八幡製鐵所の援助を乞ふか、否らされは外國より熟練なる技師職工を聘せさるへからす。此外國技術者を招聘する事一案なりと雖、小資本の工場に於ては實行に躊躇せざるを得す。又工場の設備に於ても、民間に放任するときは資本の關係上小規模に過き、製鐵事業の如き男性的大工業に不適當なる從て不經濟なる小設備に甘んせさるを得さるに至るへし。此點に對し政府は一定の方針を定め小會社の濫興を妨止し、同時に一面比較的大資本の完全なる工場を設立せしむるを要す。斯くするときは或は外國より一時技術者職工等を招聘するも、見習時期なる創業の困難に堪へ得る丈大なる設備と爲すことを得んか。民設の工

場を調査し更に大規模の裝置を爲し十分見込ありと認めたるものに對しては、政府は此際大に奬勵援助を與へ其進展を期するは、現在の時局に際し最も機宜を得たる適當の處置と謂ふへし。

實際政府の援助を俟たず、比較的大資本を有する人々の合同出資に依り、創業の困厄に耐ゆるの覺悟を以て、此際相當大規模の製鐵工場を創設する勇氣ある工業家の輩出せんこと、予輩の切に歡迎する處にして、眞に國家製鐵事業の發達上第一の良策なりと雖、現在の吾國に果して此特種工業に向て資本の大合同を出現し得へきや、予輩か寧ろ第二の策たる政府の援助を乞はんとする所以のものは、現在の日本に於ては前示資本の大合同の示現の甚覺束なきを感するか故なり。

予輩か常に唱道する所なるか、國家事業の内其時代に應し國家の存立條件と認むへきものと、其繁榮條件と認むへきものとの兩者あり。而して吾國に於て政府の補助を得て經營する會社事業中、其繁榮條件たるに止まり、存立條件に觸れさるもの多きにも拘はらす、此製鐵事業の如き存立條件たる重要なる事業に對し一般に冷淡なるかの感あるは如何、或は曰はん政府は自ら八幡製鐵所を設け是を直營するにあらすやと。予は思ふ東洋の製鐵事業と云ふ大なる見地より見るときは、決して一の八幡製鐵所を以て足れりとすへからす、多々益々製鐵所を增設して以て自給自足に至る迄の大缺陷を補塡せさるへからすと。斯く爲すの方針として官營萬能主義は予の採らさる所なり。宜しく東洋何れの地たるを問はす適當と認むる所に於て民營の大會社を興し、政府は相當の保證を與へ、以て其進展を期せさるへからす。今後東洋に於ける製鐵事業の中心地は何れの地點に定まるへきか、少なくとも大陸方面に向ふへきは豫想するに難からす。斯る場合に於て官營主義は最も其當を得たるものと云ふへからす。此予か前述の主張を爲す所以なり。

要するに予の趣旨は政府適當の指導の下に、無方針の小會社の濫興を防き、比較的有力なる民間會社を適當に東洋に配置し、以て全體の發達を完成せんとするに在り。斯く爲すには政府は必要に應し

大に此民設會社に援助を與ふるの要ありと信ず。

四　八幡製鐵所は此際大に擴張すへきこと

歐州戰亂の現狀か東洋の製鐵事業を促進するに最好の機會を與へたる今日に於ては、該事業の促進を期する上に於ても、國家經濟の上に於ても、現在の八幡製鐵所を擴張して大に其能力を發揮せしむること目睫の急務なりとす。目今世上に論議せらるゝ八幡製鐵所民營論の如きは少なくとも現在に於ては予の贊成する克はさる所なり。此民營論の實行は尙一段と東洋に於ける製鐵事業の進歩したる後ならさるへからす。夫よりも緊要なる事業は現在の同所第一期擴張工事を一日も早く完成し、更に急速に大々的擴張を實行して急需に應するの策を講するにあり。彼の第一期擴張工事の如き豫算の繰延引續きし爲に未だ完成に至らす。當初時の長官の立てたる計畫を其儘實行せは、明治四十五年には年額十八萬頓の鋼材の產額は三十萬頓以上に增額せられたるへく、此差額十數萬噸は今日の場合如何に諸般の工業を利したるへきか、如何に國家經濟を益したるへきか。

既往は追ふへからす要は後悔を再ひせさるに在り。聞く所に據れは製鐵所は更に三千五百萬圓を以て第二期擴張案を實行せんとし、閣議の容る所と成らさりしとか、其理由は財政上に在ること推するに難からすと雖、吾國現在の經濟狀態に於て又莫大なる利益を擧けつある製鐵所今日の狀態に於て右の資金を調達するの方法無しと云ふか如きは、殆と予輩の解する能はさる所なり。國庫に餘裕の存せさるに於ては何そ是を募債其他の方法に求めさるや。製鐵所は是等資金の利子を負擔し何等國庫に累を及ほさゝるへきなり。特に如上の三千五百萬圓と雖一時に所要のものにあらす。今後數年間に漸次必要に應し募債其他の方法を取れは足れるにあらすや。非募債主義と云ふか如き幻影に捕はるゝか如きは賢明なる內閣諸公の爲さゝる所、必すや今期の帝國議會に提出せられ時期を失せす擴

張案の實行に著手せらるるは予の信せんと欲する所なり。只予は玆に擴張すへき製鐵所に對しては、今後興起すへき民設の製鐵所との間の調節を圖り、彼是相通して外品輸入を防壓するの目的を達せん爲、其工場の設備、製品の種類等に對して民設工場の立場を十分に考慮斟酌せられ、民設會社發達の初期に於て不幸なる競爭に陷るか如き事なき樣、予か第一項に於て論述せる統一方針を定め、工場整備を斷行せられんことを希望せさるを得す。冀くは此の如くにして始めて官民相駢馳して俱に偕に東洋の製鐵事業を發達せしむるを得ん。

五　結論

予輩の論旨猶盡さゝるものあるへきも、要は吾國特に東洋の製鐵事業を統一し其速進を促かし、以て自給自足の域に達せしめ、進んては後來鐵材西漸の氣運をも養はんとする此千載一遇の好期に際し、朝野共に胸襟を開きて永遠の策を講し、世界の製鐵史に往々ある所の失敗の經驗に苦ますして順調の發達を遂けしめさる可からさるを感し、如上各項の最も急務と認むるものを絮說し大方の敎示を仰かんとする所以なり。

泰西の俚諺に曰く「製鐵事業家は十年はソーワーの上に座れぬ」以て斯業創設上の困苦を推知するに足るへく、八幡製鐵所亦確に前示俚諺の苦を嘗めたり、願くは今後新設の工場に於ては先覺者の適當なる指揮により其苦を再ひせさらんことを。斯くて製鐵事業完成の曉に於て他民族と抗爭すへき物質的準備成り、加之精神界に於ては國家の一分子として世界に冠たるの美點を有する吾大和民族は、如何に强勢なる民族に對抗し天與の使命を全ふすることを得ん、

終りに臨みて更に大方の識者に訴ふ。實際今回の如き空前絕後の好機に際し、吾國に於ける貧弱なる鐵材の自給力は是を歐米の諸强國は勿論、二等三等の列位にある諸國に比するも殆と比較にもならぬ少量の產鐵を得るに過きさるは眞に憐むへき有樣にして、陸海軍當局如何に軍器の獨立を叫び、

民間亦器械工業の發達を企つるも、其主要原料たる鐵材の自給無くして如何てか完全の獨立發達を企圖すへけんや。一朝時局の轉回して外國の原料鐵材を遮斷したりと假定せよ眞に寒心に堪ゑさるにあらすや。

終りに國風一首を添ふ

鐵

白かねや黃かね赤かね數はあれと
御國の盾とたのむ黑かね

造船用鋼材騰貴の趨勢

湊　一　磨

目次

一　總說
二　英國に於ける鋼材の需給竝價格騰貴の狀況
三　米國に於ける鋼材の需給竝價格騰貴の狀況
四　英國より日本への鋼材運賃騰貴の狀況
五　結論